

## 令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

担当部署の属性をお選びください

記

### 1. 申請団体情報 1-1. 申請団体

団体名	南国市	代表者名	平山 耕三		
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	企画課企画調整係	連絡先電話番号	088-880-6553
担当者役職	係長	担当者氏名	小原 伯孔	連絡先E-mail	
住所	783-8501 高知県南国市大そね甲2301				

### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名（予定）	DX推進事業（EBPMの推進）
概要	EBPMの必要性・手法などについて学ぶ職員向けの講義及びワークショップを実施する		
支援を求める分野	EBPM		

## 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	028K	令和6年8月19日	講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年7月17日	講演(実地)	15時00分	17時00分	
				活動時間（分）	120
2-2. 派遣場所	会場名	南国市役所	最寄駅	JR後免駅	
	所在地	高知県南国市大そね甲2301	最寄駅からの交通手段	徒歩	

## 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	村上 文洋
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	EBPMを含むDX推進について、背景・課題・解決方法、考え方も含めて、事例を出していただきながら非常にわかりやすく講義をいただいたため、受講者の理解が進んだ。 DXについては、システムの導入を目指すものではなく、スモールスタートが基本と考えているが、村上講師のデジタル化にこだわらず、できることから始めるという話が、受講アンケートの中でも共感する意見が多くみられたため、意識改革につながったと感じている。
アドバイザーへの要望事項	受講者から出た意見を踏まえ、DX担当部署が抱えている課題、今後の進め方などを3回目のフォローアップでアドバイスをいただきたいです。

## 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	61人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	61			
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果					
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	政策立案が主観や経験によって行われており、科学的なデータや調査結果を重視して政策を立案、実施することの意義を理解しデータを活用し業務につなげる習慣がこれまでなかった。管理職も含めてデータにより政策の意義や効果を説明することができていない。職員はEBPMの推進と言われても、どのような取り組みなのか、何から始めればいいのかわからないなど感じている職員も多い。また、それぞれの部署で業務の結果データは蓄積されているが、サイロ化しており、他部署のデータと組み合わせる新たな視点で政策を展開することはできていない。				
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	主観や経験に頼るのではなく、科学的なデータや調査結果を重視して政策を立案、実施し、効果検証を行うことが地域課題の解決につながることを職員が意識し、実践できる組織となり、そして地域課題に対して根拠となるデータを用いながら住民と共同で課題に取り組むことで、より地域に即した課題解決が行えることを目標としている。				

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	庁内におけるDXやEBPM推進する意識の醸成を図るため、管理職及びDX推進リーダーを対象としたEBPM研修を実施した。労働人口減少による職員数の減少など、今対面している課題に立ち向かうために、データを利活用する必要性や意義、方法などについて説明いただき、職員の意識改革につながる講義となった。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	DXの取組みについては、DX推進計画に基づき研修等を実施してきたため、一定程度理解されている。しかしながら、データの利活用(EBPM)については、これまで取り組んでいなかったこともあり、業務において意識していない職員が多かった。本研修における事前アンケートでも、EBPMを「ある程度理解している」「実践している」と回答した者が7.4%と低かったが、研修後の意見では実践に対して前向きな意見が多かったため、今後EBPMの考え方が根付くことを期待している。講義のみであり、すぐに改善効果が出るものではないが、DXと同様、継続して取り組むことで、意識の醸成を図りたい。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑤組織業務改善ができた
	DX及びEBPMを利用すべき管理職及びDX推進リーダーを対象に官民様々な事例も交えながら研修を実施していただいたことで、社会のスタンダードな考え方との差を実感でき、EBPMを推進するうえで基礎となる研修となった	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	研修の真の目的であるDXの実践について、研修を受講して終わりということ避けたいため、今後どのように働きかければ各所属で実践されるようになるか、フォローアップ(3回目)で支援をいただく予定である。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 本研修における事前アンケートでは、EBPMを「ある程度理解している」「実践している」と回答した者が7.4%と低かったが、研修後の意見では実践する(課題をデータを用いて解決する)との前向きな意見が多く見られた。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取り組む事項がある
	DX・EBPMについてはツールの導入ありきのものではないと考えているため、スモールスタートで継続していくを目標として、各所属でできることから進められるよう、研修の内容・アンケート結果を踏まえながら庁内の機運を高めていく。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	主観や経験に頼るのではなく、科学的なデータや調査結果を重視して政策を立案、実施し、効果検証を行うことが地域課題の解決につながることを職員が意識し、実践できる組織となり、そして地域課題に対して根拠となるデータを用いながら住民と共同で課題に取り組むことで、より地域に即した課題解決が行えることを目標としている。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可  掲載可

[https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past\\_year\\_all\\_houkoku/](https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/)

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

